

ヒングステッドの単式簿記およびイギリス式簿記の検討

百 瀬 房 徳

I 序

ヒングステッド (Christian Ernst Hingstedt) は、1804年に『複式簿記の商業簿記における新しい実務の展開 (Die neuern praktischen Fortschritte im doppelten kaufmanischen Buchhalten)』をエルベ河の河口のドイツにおける貿易港のひとつであるハンブルグにおいて刊行した。

ハンブルグは、移住したポルトガル系ユダヤ人によって、イベリア半島および地中海諸港との取引が増大したとされている。ハンブルグはこうしてアントウェルペン、アムステルダム等を始め、フランス、イベリア半島諸都市、地中海諸都市との通商ネットワークを確立していたことが理解できる。イギリスとも、ハンザ諸都市の反対にもかかわらず、イギリスからの支店の設置を認め、この時以降ハンブルグは大陸におけるイギリス貿易の最も重要な拠点となったとされている¹⁾。

したがって、オランダ、フランス、イギリス等より商人の手等によって簿記がもたらされたのである。ドイツでは、もともと、フランス、オランダ等より摂取した複式簿記に加えて、イギリスからもたらされた単式簿記 (簡略化された複式簿記) および複式簿記を検討して、独自の「大陸法」を完成させていく。この過程でヒングステッドの著作はその1つで複式簿記を、一貫して、提示する。そこで、複式簿記へ行き着くまえに、単式簿記 (簡略された複式簿記) およびジョーンズのイギリス簿記について詳細に批判的検討を加えている。特に、単式簿記では省略されている仕訳帳の機能を一貫して重要視している。これらの検討を通じて複式簿記の優位性を導いている。そこで、当論文では、ヒングステッドの示す単式簿記 (簡略化された複式簿記) の批判的検討と複式簿記の優位性について論ずる。

II 単式簿記か複式簿記か

(1) 単式簿記 (簡略化された複式簿記) からの離脱

ヒングステッドの簿記書はハンブルグで刊行されている。それ故、ハンブルグにおける簿記の実務慣行が基礎となっていることが推定される。

簿記には、ヒングステッドによると、2つの種類があるとする。単式簿記 (簡略化された複式簿記、abgekürzte doppelte Buchhaltung) と複式簿記 (doppelte Buchhaltung) である。

ハンブルグでは、イギリスとの貿易、フランス、オランダ等との貿易、およびその他の国々等の貿易、その自由貿易港として栄え、エルベ河の後背地、北ドイツの商業都市からの商人の往来があった。かくして、簿記もイギリスやフランス、オランダ等からもたらされ、それを摂取してドイツ固有の簿記を形成してゆく。イギリスからもたらされた簿記は単式簿記 (簡略化された複式簿記) と複式簿記である。この複式簿記は、その帳簿の締切に特徴があり、「会計期を越えた商業帳簿の継続」のそれである。勘定は残高を期末に「次期繰越」として締切り、即座に、「前期繰越」を記入して取引の記録を開始してしまうことによる。それ故、商業帳簿より残高勘定は作成されない。それに対して、フランス、オランダ等からもたらされた簿記は、「会計期ごとの商業帳簿の完結」と特徴づけられる。これでは、勘定が締切られる時、仕訳を通じて、残高勘定へと誘導される。したがって、同じ複式簿記でも、フランス、オランダ等よりもたらされたドイツの複式簿記とイギリスのそれとは異なり、前者は「大陸法」と称され、後者は「英国法」と称される。ドイツにおいては、後者の影響が大きく、ワーゲナーによれば、「単式簿記 (簡略化された複式簿記)」には

1) 百瀬房徳、1998年、s.13/14.

多くの著者達が心を奪われており、このシステムがすべての商取引に対して適用するよう求められたとする。彼等にはStricker, Schneider, Clausen等が挙げられるとする²⁾。それにもかかわらず、ワーグナーは複式簿記を志向した。なぜならば、単式簿記（簡略化された複式簿記）は、実際には小規模の事業にしか適用できないからであるとする³⁾。これについては、ヒングステッドでも指摘されている。したがって、ヒングステッドは、単式簿記（簡略化された複式簿記）の制約を越えて、小規模の事業にも複式簿記を拡大し、適用可能であるとする。そこで、ヒングステッドの著作以前に、ジョーンズの著作のドイツ語訳を刊行し、続いて、単式簿記（簡略化された複式簿記）でなく、複式簿記の著作も刊行したワーグナーの複式簿記の体系を示すと「図表－1」の通りである⁴⁾。

（２）単式簿記（簡略化された複式簿記）

単式簿記（簡略化された複式簿記）は、一般に、取引を日々記録帳または日記帳に記録することより始まり、複式記入の原則を維持するが、仕訳帳を通さず、補助簿または元帳へ振替える。その後、貸借

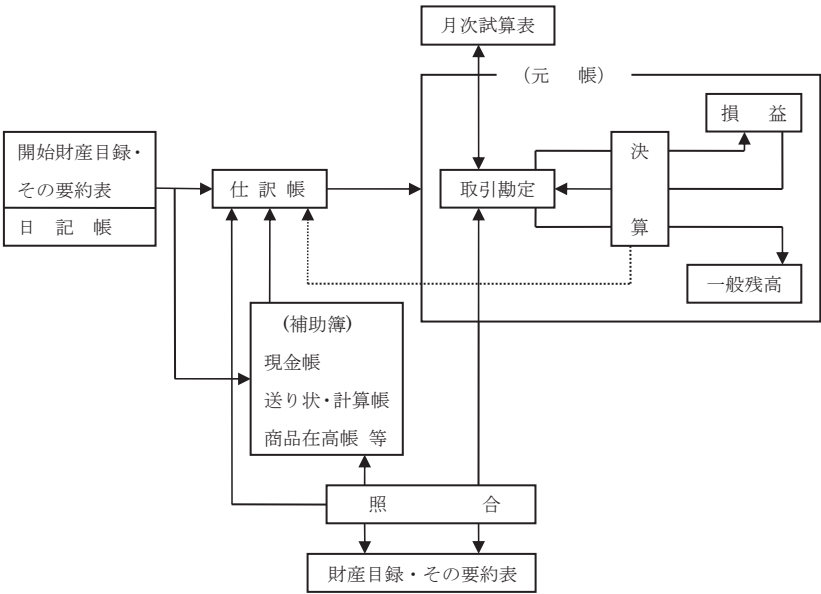
平均表を作成するには、経験によれば、２つの方法がある。ひとつは、日々記録帳から、直接、元帳へ振替えられるかまたは補助簿から元帳へ振替えられ、この元帳に基づいて棚卸を通じて財産目録を作成する。これを要約して貸借平均表を作成する。もうひとつは、特定の勘定のみが仕訳を通して元帳へ転記され、この元帳から財産目録へ振替えられ、その他は補助簿へ転記され、この補助簿から元帳を通すことなく財産目録へ振り替えられる。その財産目録を要約して貸借平均表を作成する。

ひとつはゲアハルトの単式簿記（簡略化された複式簿記）である。この簿記は複式記入に基づくとする。複式記入は取引の二重性にもとづく貸借平均の原則と仕訳の原則の基礎となっている。

この簿記では、現金の受取と引渡および負債の受入と返済を中心に記録する。その際、現金または負債に対応する複式記入に基づいた仕訳は示されない。しかしながら、仕訳の原理は想定される。その際、現金また負債の相手勘定は示されない。それ故、補助簿たる現金帳または負債帳のなかで相手勘定の詳細が示される。かくして、元帳では、現金勘定または負債勘定の増加・減少のみが示される。ゲ

図表－1

ワーグナーの簿記の体系



2) 百瀬房徳、2015年、s.2.

3) 百瀬房徳、2015年、s.2/3.

4) 百瀬房徳、2015年、s.3.

アハルトの単式簿記（簡略化された複式簿記）を示すと「図表－2」の通りである⁵⁾。

「図表－2」における補助簿においては、勘定同様に、記録の役割に加えて計算の役割も認められる。特に、残高計算が認められる。簿記システムとして複式簿記より仕訳帳を省略したのみで、直接、元帳へ振替えられ、損益勘定および資本金勘定へ導かれる。さらに、元帳から財産目録をへて貸借平均表が導きだされる。

ゲアハルトの単式簿記（簡略化された複式簿記）では、事例では勘定が締切られていない。そこで、勘定の締切りのひな形を示すことにする⁶⁾。

まず、現金勘定の残高は下記のように計算される。

現金勘定：

収入の合計	Thlr. × × × × ×
支出の合計	Thlr. × × × × ×
差引残高	Thlr. × × ×

負債（債務者）で残高のある者は、下記のように計算される。

債務者の勘定：

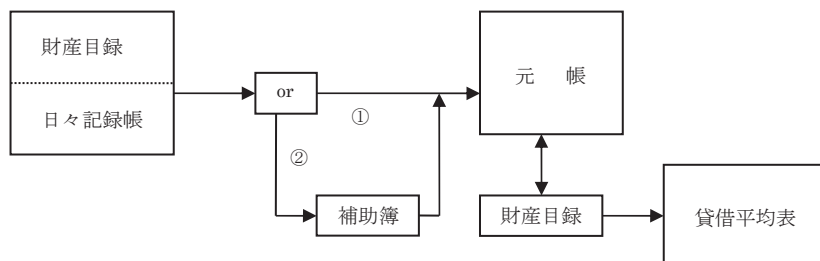
収入の合計	Thlr. × × × ×
支出の合計	Thlr. × × ×
差引残高	Thlr. × ×

現金勘定、債務者勘定および資本金勘定より貸借平均表をTフォームで推定すると「図表－3」の通りである⁷⁾。

さらに、支出側での資本金増加について、取引事例より推定すると、すべての資本金の増・減が、直接、資本金勘定へもたらされるとすれば、「図表－4」の通りである⁸⁾。

「図表－4」の売上利益、支払利息、維持・経費および住居費は、損益を示す項目、即ち、資本を増・減させる項目であり、直接、資本金勘定で示したものである。それ故、損益勘定は作成されない。

図表－2 単式簿記（簡略化された複式簿記）



(注)・①はすべての取引が勘定にもたらされ、②は一部直接に勘定へ、他の部分は補助簿を通じて勘定へもたらされる

- ・日々記録帳または日記帳 — 毎日の取引を詳細に記録する
- ・補助簿は現金帳、負債帳
- ・元帳は借方と貸方のT字フォーム形式の勘定の集合体

図表－3 貸借平均表

収 入		支 出	
現 金	× × × × ×	資 本 金	× × × × ×
債 務 者	× × ×	資本金増加	× × ×
	× × × × ×	(利 益)	× × × × ×

5) 百瀬房徳、2016年、s.50.

6) 百瀬房徳、2017年、s.55/

7) 百瀬房徳、2016年、s.59.

8) 百瀬房徳、2016年、s.59.

利益は、「図表－４」の資本金合計（収入側）より資本金（支出側）を控除することにより算出される。

もうひとつは、ストリッカーの単式簿記（簡略化された複式簿記）である。この簿記では、債務者および債権者の元帳における管理と補助簿における現金およびその他の管理が主体で、特に、現金については「現金収入」と「現金支出」が現金出納帳で記録され、現金の在高を記録するシステムを採用している。

この簿記では、開始財産目録とその要約表から始まり、仕訳帳、元帳、補助簿、そして決算財産目録で終了している。仕訳帳は、内容的には、「仕訳帳的日記帳」であり、取引の内容を示した右側に金額欄をもうけている。まず、借方を記入し、その下に貸方を示している。元帳との関連で、元帳が債務者および債権者のみを記録するので、仕訳帳もこれらに限定される。したがって、その他の勘定は、現金を始め補助簿で記録される。この補助簿には、現金帳（Cassa=Buch）、送り状帳（Factura=Buch）、商

品在高帳（Waaren=Scontro）、控え帳（Copier=Buch）、郵便料金帳（Brief=Porto=Buch）、経費帳（Unkosten=Buch）、手形振出および引受帳（Tratten=und=AcceputationsBuch）、送金帳（Rimessa=Buch）がみられる。これからして、ストリッカーの簿記の体系は「図表－５」の通りである⁹⁾。

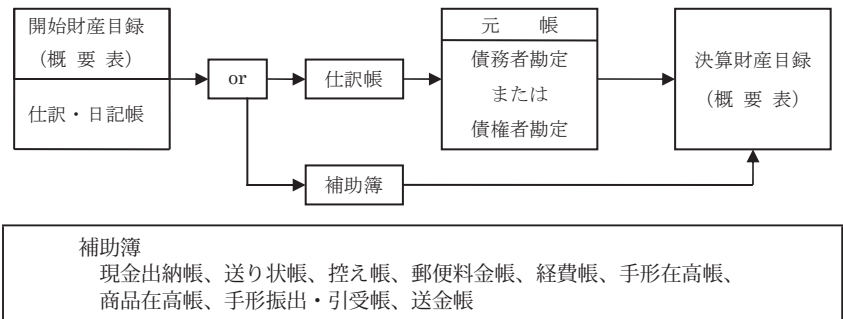
ストリッカーの単式簿記（簡略化された複式簿記）においては、債務者および債権者のみが勘定にみられる。これらの勘定は、決算に際して、英国法にしたがって、元帳を締切ると同時に新元帳へ振替えられる。そのため、残高勘定へともたらされない。「次期繰越」の額が財産目録へと抽出される。元帳で扱われない項目は補助簿より、直接、財産目録へともたらされる。したがって、損益勘定は作成されない。それ故、期首と期末の財産目録における「私の財産」の差額として損益が算出される。私の財産について、例示では、期末16628, 19, 12Rthlr. より期首11284, 47, 12 Rthlr.を控除すると、利益5343, 32, —Rthlr.が算出される。期末の財産目録の事例は「図表－６」の通りである¹⁰⁾。

「私の財産」の増・減を算出するため、期首の財

図表－４ 資本金勘定

収 入		支 出	
支 払 利 息	××	資 本 金	×××××
維持・経費	××××	売 上 利 益	×××××
住 居 費	×××		
資本金合計	×××××		
	××××××		××××××

図表－５ ストリッカーの簿記の体系



9) 百瀬房徳、1998年、s.272.

10) 百瀬房徳、1998年、s.279.

図表－6

財産目録または要約表

借方		私の資産および負債		
		Rthlr.	Stb	HI
1	Cassa, laut Cassa=Buch . . .	2945	36	8
2	Wechsel, laut Wechsel=Buch . . .	287	30	"
3	Waaren, laut Waaren=Skontro . . .	9241	2	12
4	Debitoren, laut Haupt=Buch . . .			
	Casimir Tanner, . . . Rthlr. 123, 39, "			
	Franz Freimann, . . . Rthlr. 877, 20, "			
	Pfil. Heilmann . . . Rthlr. 402, ", "			
	Abrah. Wachter, . . . Rthlr. 50, ", "			
	Jacob Gelhaupt, . . . Rthlr. 50, ", "			
	St. Weilhaus, . . . Rthlr. 50, ", "			
	Aur. Meinert, . . . Rthlr. 360, ", "			
	Jurius Neumann, . . . Rthlr. 500, ", "			
	Felir Laudon, . . . Rthlr. 1671, 19, 12			
	Ciprian Tobsen, . . . Rthlr. 600, ", "			
	Leop. Fsland, . . . Rthlr. 600, ", "	5414	18	12
	Lust, Jonathan Braus, . . . Rthlr. 14, 38, 8			
	失われたものより多くを得た . . . Rthlr. 151, 18, 8			
	Rthlr. 165, 57, 4			
	Rthlr.	17888	28	"
貸方				
	Creditoren, laut Haupt=Buch	Rthlr.	Stb	HI
	Adrian Bruckener, . . . Rthlr. 282, 48, 4			
	Pierre Adelung . . . Rthlr. 30, 40, "			
	Jonathan Braus . . . Rthlr. 14, 38, 8			
	Jan Enoch, . . . Rthlr. 932, 1, 8	1260	8	4
	Überschuss			
	Mathias Baumbach, . . . Rthlr. 8, ", "			
	John Hedger . . . Rthlr. 35, 38, 8			
	P. Adelung . . . Rthlr. 30, ", "			
	Mose & Comp. . . . Rthlr. 10, 40, 12,			
	Jan Enoch . . . Rthlr. 81, 38, "			
	Rthlr. 165, 57, 4			
	その後私の自己の財産は次に留まる .	16628	19	12
	Rthlr.	17888	28	"

図表－7

Vorstellung

借方		Meine Inventarium	17・・年	1月	1日			
			Rthlr.	Stb	Hl			
1	Cassa . . .		3000	"	"			
2	Wechseln . . .		1878	"	"			
3	Waaren . . .		8000	"	"			
4	Debitoren . . .		4043	52	"			
5	Zweifelhafte Forderungen . . .		800	"	"			
			Rthlr.	17721	"	"		
貸方								
			Rthlr.	Stb	Hl			
	Creditoren . . .		5437	4	4			
	Vermutliche Verlust . . .		1000	"	"			
	Danach bleibende reine Vermögen in Handlung, Meine Haus, Verschiedene Gärten und Mobilien . . .		11284	47	"			
			Rthlr.	17721	52	"		

産目録の「概要表」を示すと「図表－7」の通りである¹¹⁾。

「図表－7」において、貸方で具体的に掲げられている期首の「私の財産」11284Rthlr. 47Stb. 12Hl. を、「図表－6」において掲げられている期末の「私の財産」16628Rthlr. 19Stb. 12Hl.より控除すると利益5343Rthlr. 32Stb. 一が求められる。

さらに、この簿記に仕訳帳と元帳の関係については、特に、元帳では人的勘定である債務者および債権者のみが設けられるので、それらのみが仕訳されて転記される。仕訳に際して、頭に、P（借方）とA（貸方）を付ける。そして、相手勘定への転記先はなく、その場合、転記先の借方または貸方は「・」で示めされる。それは、下記の通りである¹²⁾。

1) 借方の債務者に対して $\frac{2}{\cdot}$

2) 貸方の債権者に対して $\frac{\cdot}{3}$

「図表－5」でみられるように、仕訳帳では、債務者および債権者のみが仕訳の対象となり、人数も多く、その数に相当する人名勘定がかかげられている。

仕訳帳の開始仕訳は「図表－8」の通りである¹³⁾。

ストリッカーは、「単式簿記」と称しているが、複式記入に基づく「取引の二重性よりもたらされる貸借平均の原則」および「仕訳の原則」を基礎としているが故に、複式簿記と軌を一にしている。それ故、単式簿記というよりも、内容を重視すれば、「簡略化された複式簿記」と称されよう。ここでは、単式簿記（簡略化された複式簿記）であるのに仕訳帳がみられるが、上述のように、債務者および債権者のみが処理されるので、仕訳帳の使用は限定的である。これについては、プロイセン一般国法に規定されている訴訟に関連する諸条文が推定される¹⁴⁾。それ以外は補助簿に委ねられる。それ故、売買に関連する現金帳（Cassa=Buch）、銀行帳（Banko=Buch）、仕入帳（Einkauf=Buch）、売上帳（Verkauf=Buch）および商品在高帳（Waaren=Skontro）等々は補助簿で扱われる。一般には、単式簿記では日記帳から始まり、直接、元帳へ転記されて現金勘定、債務者勘定および債権者勘定が処理される。

ストリッカーの簿記をみると、限定的であるが、仕訳帳が使用され、補助簿では商品関連の帳簿が取

11) 百瀬房徳、1998年、s.278.

12) 百瀬房徳、1998年、s.274.

13) 百瀬房徳、1998年、s.285.

14) 百瀬房徳、2016年、s.41-43.

図表 8

Den 2ten Januarns 17 . . in Barmen

	P. Nachfolgende 11. Debitores Um deren Rechnungen auf den alten Büchern zu schliessen bringen deren Saide hieher 1lich die guten Schuldner				
1	P. Victor Eifert allhier				
•	Rthlr. 500. in Rthlr. à 1 11/12 Rthlr. à 1 1/6 % in Rthlr. à 15/6	"	287	30	"
1	P. Winand Samler in Mastlicht				
•	fl. 500. Holl. Cour. à 166 2/3 & 4 1/6% . . .	"	519	26	12
2	P. Castmir Tanner in Dieft				
•	fl. 1800 Carot. à 19 1/2 fl. & 37 11/117% . . .	"	676	55	4
2	P. Joseph Manke in Osnabrück				
•	Rthlr. 800 alte Ld'or à Rthlr. 5. & à 12 . . .	"	960	"	"
3	P. Franz Freimann in Frankfurt				
•	fl. 600 Rthlr. à 2 3/4 . . .	"	400	"	"
3	P. Bernhald Ohlers in Giesen . . .	"	600	"	"
•					
4	P. Philipp Hellmann in Nürnberg . . .	"	752	8	"
•	2tens zweifelhafte Schulden				
4	P. Abraham Wachter in Zülich . . .	"	100	"	"
•					
5	P. Jacob Gelhaupt in Düren . . .	"	150	"	"
•					
5	P. Peter Rollmann in Marburg . . .	"	250	"	"
•					
6	P. Elias Weilhausin Coblenz . . .	"	300	"	"
•					
	Rthlr.	"	4843	52	"

	A. Nachfolgende Creditores Um deren Rechnungen auf den alten Büchern zu schließen erebitire folgende dahier				
•					
6	A. Wilhelm Euler in Sohlingen				
•	Rthlr. 400 in Rthlr. à 1 11/12 Rthlr. à 4% in Rthlr. à 1 5/6	"	383	20	"
7	A. Jan van Enoch in Amsterdam Cto. mio . . .				
•	fl. 1800 Holl. Cour. à 165 % . . .	"	1188	"	"
7	A. Adrian Brückner in Antwerpen Conto mio				
•	fl. 2000 in Corol. à 19 1/2 fl. à 37 11/117% . . .	"	752	8	4
8	A. Mathias Baumbach in Braunscheig Conto mio				
•	Rthlr. 400. Alte Ld'or à Rthlr. 5. à 22% . . .	"	488	"	"
8	A. John Hebger in London Conto mio				
•	L. 200. Sterl. à 36ß und 165% . . .	"	1425	36	"
9	A. Justus Abel. in Augsburg. Mio				
	fi. 1800 in Rthlr. zu 2 3/4 fl. . .	"	1200	"	"
	Rthlr.	"	5437	4	4

り上げられている。その帰結として、単式簿記（簡略化された複式簿記）に仕訳帳が採用されていることに鑑みて、単式簿記から完全な複式簿記へ移行する段階の「混合の複式簿記」といえよう。

ヒングステッドは、これらの帳簿は、その重要性が大きいかまたは小さいかにより商人の奉公人および若者が個人的に付けるとする。掲げられた勘定（帳簿）については、時折、簿記方を任命することになる。そして、これらを記録する方法は取引の多様性というよりもむしろ、十分でないが、これらの帳簿の記録係の視点からして非常に様々である。そのため、才能のある簿記方こそが、最終的に、容易に正しい指示によりそれらの多くの完全性を目指すことができるとする。ヒングステッドは、単式的方式に属する著書の数、ワーグナーも指摘しているように¹⁵⁾、非常に多いとする。ゲアハルト、ワーグナー等々がその例である。そうして、多くの帳場において単式簿記で付けられているか、それとも、多くの組み合わせがあるとしている。しかし、これらを、いずれにしても、相互に取り入れることはできないとする。簡略化された簿記（単式簿記）は、多様性があり簿記方の判断に委ねられると推定される。ゲアハルト、ワーグナー等は単式簿記（簡略化された複式簿記）を受入れることなく複式簿記の著作を、ヒングステッド以前に、刊行している。ヒングステッドは、ひきつづき、よりシステム化された簿記である「複式簿記」を選択している。

Ⅲ 小規模事業への複式簿記の適用

小規模事業でも、ヒングステッドによれば、複式簿記の適用は可能であるとする。複式簿記では、取引を整理するべく仕訳帳が用いられるという特徴をもっている。ヒングステッドは、この複式簿記の原理よりもたらされるものでなければ、資産の状況に関する、十分で、確かな信頼性をめったに得られないとして、すでに様々な小規模事業で私が見出し、そして、これに対して完全かつ充分であり、容易に運用され、かつその状況の明瞭な概要を見出すところの方法を詳細に衆知させるのに奉仕しているとす

る。したがって、小売商、布地商、ワイン酒場等々でも適用可能であるとする（s.96）¹⁶⁾。

小規模事業では、日記帳、仕訳帳、現金帳（銀行帳が事情により必要）、仕入帳、売上帳および在高帳等々が付けられる。日記帳は売買されるものおよび自己自身のために商品より家計において必要なもの等々について簡単に書留める。現金帳は現金での売上および債務者より入ってくるもの、それに対して、取引のコストをとまって仕入れた商品、家計のために引渡したものを書留める（s.96）。ヒングステッドの受入れた仕訳帳は日記帳より債務者および債権者との取引を「仕訳の二重性よりもたらされる貸借平均」および「仕訳の原則」に基づいて記録し、元帳へもたらす。したがって、日記帳と元帳の間を仲介する。この仕訳帳では、1月、6月および12月と半年ごとに仕訳が行われ、勘定へ振替えられる。そして、12月末には決算が行われ、損益勘定へ振替仕訳が行われており、その次に、残高勘定への振替仕訳が行われている。ここでは決算にかかわる仕訳まで示されているが、損益勘定および残高勘定へもたらされるまでに至っていない。このことは、小規模でない事業に関する複式簿記に詳細に示されているので譲る。特に、1月の仕訳と12月の決算仕訳を示すと「図表－9」の通りである（s.98/99）。

現金勘定は、主要な勘定の1つであるので、合計で現金帳より月ごとにもたらされ、そして、すべてが半年でかつ数値を合計してもたらされる。ヒングステッドは、現金に加えて家計費について頻繁に発生する借方について示している。これを示すと「図表－10」の通りである（s.97）。

この現金および家計費では、月ごとに仕訳帳を通じて振替えられている。したがって、ここに至るまでには現金勘定でも、家計費勘定でも、補助簿により取引の詳細が記録されている。それ故、複雑な単式簿記よりも、仕訳帳を通じて取引を最小単位である勘定へと整理して、振替える複式簿記を勧めているといえよう。その意味で、複式簿記がヒングステッドでは優位性をもって迎えられているといえる。

15) 百瀬房徳、2015年、s.2.

16) ヒングステッドの著作については、以降、文章の中でページを示す。

図表－9

1803 Januar		Debet.		Credi	
5 Debitores : an 5 Creditores.					
Nach der leßten Bilanz sind zu debitieren					
Banco unter J. P. Stral für den Saldo	BMk 1286 : 4	1286	4		
Cassa. Saldo in verschiedener Münze	5421				
	• • • BMk 4337 : —	4337	—		
Wohnerbe an der Fleischaergasse. Werth	BMk 12019 : 8	12019	8		
Waarenlager. laut Inventarium	• • BMk 31462 : 8				
Verschiedene Debitores, laut Verzeichniß					
	CMk 20463 : 12 à 25% 16371 : —	16371	12		
	BMk 65475 : 15				
	BMk	34018	12		
	• • •	• •			
Transport neben	• • • BMk	34018	12		
Transport von vorne Seiten		34018	12		
Dagegen zu kreditiren					
an verschiedene Creditores, für Waaren	BMk 10511 : 9			10511	9
an Haushaltung, für noch zu bezahlende Rechnungen	CMk 1212 : 8 : — 970 : —				
an hypothekarische Gläubiger des Wohnerbes	6000 Sp. Oder • • BMk 6000 : 12			6009	12
an Creditores laut Verschreibungen					
Albert Harmen	• • BMk 3000 : — :				
Philip von Menz	BMk 6000 : — :				
Peter Ahran	• • BMk 2000 : — :				
Christian Terhaus	BMk 4000 : — :				
	15000 : —			15000	—
an Kapital, dessen Bestand	• • • 32984 : 10			32984	10
	BMk 65475 : 15				
Journal von Gewinn und Verlust					
2 Debitores : an Gewinn					
Folgende geben an Avanz :					
Waaenlager	• • • • BMk 8342 : 8				
Cassa	• • • an Agiovorthail	BMk 66 : 13	66	13	
	BMk 8409 : 5				
Verlust : an 4 Creditores					
Folgende Konten sind Verlust zu tilgen :					
an Haushaltung,	• • BMk 3385 : 3				
an Handlungskosten,	• • BMk 414 : 6				
an Ausgaben des Wohnerbes	• • BMk 424 : —				
an Interessen,	• • BMk 516 : —				
	BMk 4739 : 11				
Gewinn : an Kapital,					
Den diesjährigen Gewinn	BMk 3669 : 10				
Reine Bilanz					
Debitoren					
Banko unter I. P Strd, Saldo	• • BMk 4222 : 1				
Cassa,	• • • CMk 5647 : 15 : BMk 4158 : 6				
Wohnerbe an der Fleischergasse	• BMk 12019 : 8				
Waarenlager,	• • • BMk 29327 : 12	28327	12		
Verschiedene Debitoren	• • BMk 23159 : 2				
	BMk 73246 : 13				
	BMk	29394	9	25724	15
		25724	15	• •	• •
Transport neben	BMk	3669	10	• •	• •

図表－10

現金・家計費勘定の借方

1803		Kassa = Einnahme	
Jan. 31,	Baar eingehoben in diesem Monate		
	Von verschiednen Debitoren, . . .	CMk	937 : 5
	An baarer Lösung . . .	"	642 : 4 CMk 1578 : 9
Febr. 28	Wie vor, von versgiidenen Debitoren	CMk	1562 : 4
	an baarer LöSung . . .	"	763 : " 2325 : 4
März 31.	Baar im Laden gelöst in diesem Mt.		
	u. s. w.		" 1584 : 8
1803		Oder : Haushaltung	
Jan. 31.	Für Ausgaben in diesem Monat . . .	CMk	372 : 4
Feb. 28.	"	932 : 8
März 31	"	542 : 13
	u. s. w.		

IV ジョーンズの簿記の評価

ヒングステッドは、ジョーンズは複式簿記に反論する一方で、イギリス式の単式簿記と複式簿記とを複合したかたちで独自の簿記を展開しているとする。この、ジョーンズの著作を読んだすべての読者、それについて思考した人達は、けっして適切に秩序正しく論じたものではなく、そのもの達の解釈は再び複式簿記を発見するのを非常に困難としているとする立場を同じくするに違いないとする (s.96)。それ故、ジョーンズの簿記は、多くの読者に受け入れがたい。だが、ヒングステッドは、ジョーンズのイギリス式簿記を詳細に取上げているので、以下で考察していくことにする。

ジョーンズのイギリス式簿記は、基本帳簿として日記帳および元帳の体系を採用している。この簿記システムは「図表－11」の通りである¹⁷⁾。

ジョーンズのイギリス式簿記は、内容としては、彼固有の新簿記法であり、単式簿記（簡略化された複式簿記）ではないが、それに近い簿記を創造するものであった。この簿記の特徴は記録の正確性の検証可能性を志向するものであった。したがって、この簿記システムでは、単式簿記（簡略化された複式

簿記）および複式簿記に対する理解の容易さと検証能力について欠落している部分があることを指摘している。この意味で、ジョーンズのイギリス式簿記の日記帳および仕訳帳の特徴を以下において検討する。

まず、日記帳では次のように論じられている。ジョーンズのイギリス式簿記は、複式簿記よりもたらされたところの複式記入の原則を基礎にしている。それ故、実際には、勘定において取引を借方と貸方に区分して日記帳に記録する。日記帳を見る限りでは、日記帳と称するよりは、借方と貸方欄が帳簿の左側と右側に設けられており、仕訳帳と称することも可能であろう。敢えて言うならば、「仕訳帳的日記帳」であろう。それ故、日記帳と称しても、仕訳帳の機能を内包している日記帳といえる。その帰結として、仕訳帳は必要としないし、複式簿記に固有の仕訳帳は掲げられていない。

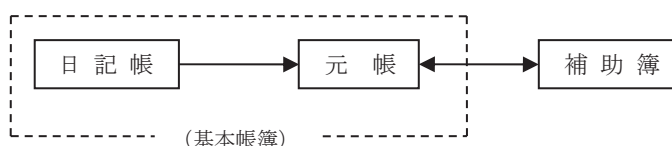
しかしながら、仕訳そのものは、形式的には一方の側の単独の記入であり、相手勘定は示されていない。したがって、内容は単式簿記、即ち簡略化された複式簿記である。仕訳の事例を示すと「図表－12」の通りである¹⁸⁾。

日記帳は、1 ページで、左側に借方を設け、右側

17) 百瀬房徳、2014年、s.31.

18) 百瀬房徳、2014年、s.33.

図表－11 ジョーンズの簿記の体系



図表－12

日 記 帳
ライプツィヒ 1月 1801

借方 様々な勘定					貸方 様々な勘定				
Rthl	G		1 月		借 or 貸				
					Rthl	G		Rthl	G
				1 月 1801					
			1	貸 Friedrich Muller allhier Für das in unsere gemeinschaftliche Handlung eingelegte Capital von	15000	-	1 a	15000	-
			-	貸 Carl Meyer allhier Für die auf gleidhe Bedingungen eingelegten	15000	-	1 b	15000	-
30000	-	c	1	借 Wilhelm Fischer, Cassierer unserer Hanndlung, Für die baar empfangenen	30000	-			
			2	貸 Antoine Le Beau in Boudeaux Für die von ihrem erhaltenen 40 Both rothen Wein à 250 Rthl	10000	-	2 f	10000	-
				貸 Couto der zahlbaren Wechsel und Assignationen, Acceptieren wir die Tratta von Le Bean für diesen Wein,fällig den 1 September	10000	-	3 g	10000	-
10000	-	f	2	借 Antoine Le Beau in Bourdeaux Für die von uns acceptirte Tratte	10000	-			
			-	貸 Cassiirer Fischer Für bezahlte samtliche Spesen dieses Weins,laut Spesen-Buch fol.1	7500	-	1 c	7500	-
			-	貸 Ludowig Stempel in Gera Für 500 Stock Gattun,laut Fattura à 14 Rthlr	7000	-	3 h	7000	-
				貸 Peter Vilbrand in Verviers Für 1000 Starb Kasimir, laut Fattura à 8Rthlr. 18G.	7500	-	3 j	7500	-

に貸方を設けている。そして、ページの中央に取引に係わる詳細を示すべく摘要欄を設け、その右側に、特別に、借方および貸方に関わりなく、全取引の金額を記録する欄、即ち「借 or 貸」欄を設けて

いる。この欄を設けることこそジョーンズのイギリス式簿記の特徴である。借方には元帳欄および日付欄が設けられ、貸方にも元帳欄が設けられて元帳と連絡している。この日記帳における記帳方法は、複

式簿記における仕訳原則にしたがって仕訳する。人名勘定、資本金勘定、現金勘定、および債務・債権勘定等より構成されており、商品に関わる勘定はない。借方に記入された時には貸方では記入されないし、貸方に記入された時には借方には記入されない。それ故、一方の側のみが記入される。したがって、全取引の金額の合計、即ち「借 or 貸」の合計と借方および貸方の合計が一致すれば、記録の正確性が確認される。この確認はいつでも行われる。このことが、計算構造からみて、不正の防止に運動し

ている。

加えて、上述の勘定のみが記録されるが故に、日記帳において仕入および売上が隠されたかたちで示されることになる。それ故、日記帳においても利益が計算されるが、仕訳が相手勘定のみを記録するので、通常とは逆に現れる。その帰結として、商品勘定とは異なり、在庫たる棚卸高を借方に加算することにより、借方合計と貸方合計の差額が利益として算出される。そのため、12月の決算月の日記帳を示すと「図表－13」の通りである¹⁹⁾。

図表－13

日 記 帳

借方 様々な勘定				貸方 様々な勘定			
Rthlr.	G			借 or 貸			
				Rthlr.	G		Rthlr. G
			—— 12 月 ——				
			•				
			•				
			•				
11815	-		借 様々な商品の勘定				
			An 330 Ellen breites Tuch				
			à 7 Rthlr.12Gr. . . . Rthlr 2850 -				
			— 570 Stab Kasimir				
			à 3 Rthlr.18Gr. . . . — 2137 -				
			— 245 Stuck Gattun				
			à 13 Rthlr.12Gr. . . — 3307 -				
			— 8 Pipen Port-Wein				
			à 440 Rthlr. . . . — 5520 -	11815	-		
46600	-		10, 11, および 12 月の合計 Rthlr.	73144	6		26544 6
Rthlr.	G.		様 々 な 勘 定				Rthlr. G.
58083	12		1 月、2 月、および 3 月				90750 -
44050	-		4 月、5 月、および 6 月				39965 -
48108	6		7 月、8 月、および 9 月				44644 18
46600	-		10 月、11 月、および 12 月				26544 6
206931	18		1801 年の取引の総合計				201904 -
			利 益 Rthlr.	5027	18		
			貸 Friedrich Muller				
			Für den halben Gewinn . . .	2513	21		
			貸 Carl Meyer				
			Für den haiben Gewinn . . .	2513	21		

19) 百瀬房徳、2014年、s.34.

かくして、日記帳の構造は2つの工夫がなされている。そのひとつは不正および誤謬を排除するために「借 or 貸」欄を設けており、その欄の合計額と借方と貸方の両欄の合計額の一致により正確性を確認しており、もうひとつは、上述の勘定と組み合わせることにより、日記帳独自で利益計算をする仕組みが生み出されている。日記帳における利益計算は、上述の例示より示すと、下記の通りである²⁰⁾。

「借 or 貸」欄の合計と借方と貸方欄の合計の一致がみられる。第4四半期についてみると、「借 or 貸」欄の合計額Rthlr.73144 6Gr.は、借方欄の合計額Rthlr.46600 - Gr.と貸方欄の合計額Rtklr. 26544 6Gr.の合計額と一致する。即ち、

「借 or 貸」欄合計額＝借方欄合計額＋貸方欄合計額
Rthlr. 73144 6Gr. = Rthlr. 46600 - Gr.
+ Rthlr. 26544 6Gr.

加えて、ここでは、一年を通じて、期末の商品の棚卸高が示めされている。これを1801年の借方合計に加算し、貸方合計を控除すると、その結果、下記の式により利益が計算される。ただし、すでに借方合計には期末商品棚卸高が、第4四半期において含まれている；

借方合計＋期末商品棚卸高－貸方合計
＝利益
Rthlr. 206931 18Gr. — Rthlr. 201904
- Gr. = 5027 18Gr.

したがって、日記帳で利益計算が可能となる。ここで計算された利益は2名の出資者であるFriedrich MullerとCarl Meyerへ配分されている。当時、合併事業が発展していたことが反映されている。

次に、元帳では下記のように論じられている。元帳は勘定の集合体であり、資本金、現金、支払送金・為替手形、商品在高とこれら以外に23の人名勘定よりなる。ここでは、日記帳との関連で、利益計算に焦点を当てることにする。利益計算は商品在高勘定で行われているので、この勘定が損益勘定の役割を担っている。

期末における商品棚卸額により利益計算をする場

となっている。借方においては利益計算の詳細が示されている。借方の上段に商品棚卸額(Inventarium) Rthlr. 11815—Gr.が記録されているが、その額は借方の金額欄の合計額の中に含まれており、Rthlr. 16121 6Gr.となっている。この額が中段の上に表示され、その下に前頁までの合計Rthlr. 27511 12Gr.が示され、両者がさらに合計されている。この合計額Rthlr. 43632 18Gr.が借方の総合計額である。貸方においては前頁までの額合計額Rthlr. 38605—Gr.が示されている。借方の下段では借方の総合計額からこの貸方の総合計額を控除して当期利益Rthlr. 5020 18Gr.が計算されている。この当期利益は日記帳で計算された利益額と一致している。この帰結として、一般に言われているところの損益勘定はみられない²¹⁾。

加えて、勘定の締切の方法についてみると、勘定が締め切られて、差額としての次期繰越額が生じた時には、相手側に前期繰越として記録し取引の記録を開始する。たとえば、借方に次期繰越を記録した時には、貸方に同時に前期繰越を記録し取引の記録を開始する。それ故、開始仕訳も決算仕訳も想定されていない。したがって、「決算期間を越えた商業帳簿の継続」と称される。このジョーンズのイギリス式簿記は、英国式簿記に従っているといえよう。また、財産の状況を示す、一般に言われているところの残高勘定または貸借対照表はみられない。商品在高勘定を示すと「図表—14」の通りである²²⁾。

ヒングステッドは、前述のような、ジョーンズのイギリス式簿記についての事例は示していないが、上述の事例を見ながら、ジョーンズの見解とそれに対するヒングステッドの複式簿記に基づいた評価について検討する。この評価は11項目にわたっている。ただし、ジョーンズのイギリス式簿記についての見解そのものは、主として、ワーグナーの訳とその評価に基づくものである。

第1に、簿記に関する文献の途方もない量、および偽りの申し立てにより、誤りにより、および勘定のごちゃ混ぜにより、数え切れないほどの破産、紛争および裁判ざた等々困った状況、および帳簿が調整され、締切られ、そして、あるべき勘定に含まれ

20) 百瀬房徳、2014年、s.35.

21) 百瀬房徳、2014年、s.37.

22) 百瀬房徳、2014年、s.38.

商品在高勘定

商品在高勘定

— 32 —

ているところの心配ごとは、複式簿記がすべてのかかるいやなことを避けることができるシステムではないとする、重要な証であるとする (s.46)。

それに対して、ヒングステッドは、上述の論考を4つの項について分析する。即ち、

- a) これに関する途方もない文献が生まれた
- b) 数知れない破産の誘因となっている
- c) 間違いによる、または勘定の支離滅裂の申告による紛争および訴訟が起こされる
- d) いたるところの帳場で、帳簿の締切にさいして生ずる当惑および不安

a) については、複式簿記の数え切れない論文の量は、著者の著作意欲の現れであろう。単式簿記の多くの著作がワーグナーにより掲げられている。ヒングステッドは、複式簿記と関連づけられるとすれば、このため、このシステムの何らかの概念を充たすべく多くの帳簿が必要となることを証明しなければならないとする。

b) については、どうして、当然に破産は複式簿記の責任となるのか？ それを関連づけるのは、不快なこととならないのか？ それ（複式簿記の著作）がとくに出版されていなかったのが残念である。支払不能が、それでも、それにより生ずる原因となるとすれば、今までに考えられなかったのか？ 複式簿記の簿記方は、ジョーンズがここハンプルグにおいて支払不能となった簿記方であるとすれば、最も多い破産について複式簿記に従って帳簿を付けなかったか、または個人的に1年以上前に脇に置かれ、まったく前進していなかったことを見出すであろう、最初の人となろう。要するに、イングランドにおけるように、商人および簿記方のおおいなる正直さによりなるか、それとも、当地では商人も、簿記方も、無知で複式簿記を悪用するか、いずれかであるとする。この帰結として、複式簿記は、システムであり、それを運用する簿記方の誠意次第であるといえよう。

c) については、訴訟および紛争は、間違いによる勘定の重要さに関連するところの誤った申告によるもので、複式簿記が原因とはほとんどならないとする。通常、かかる訴訟は、取引の保存記録またはそれについて付けられた勘定に起因する。したがって、複式簿記には起因せず、記録を担当する者、たとえば、簿記方にかかわる要因であるとする。

d) については、複式の方式に従う帳簿に関する困惑 (Verlegenheit) および不安 (Angst) は、複式簿記にまったく必然的な属性ではないとする。ほとんどの教育を受けた簿記方がいなかったことである。ここでは、ほんのわずかな簿記方しか帳簿の締切りでは不安をぬぐえなかった。簿記方は、多くの知識をもって把握し、対比し、計算するにちがいないとする (s.49/50)。

第2に、複式簿記の遅れ (Verzüge) は、改善を必要とする原則に基づいているからであるとする。このことは、とほうもない損害 (Schaden) に対して保護するものではない。というのは、商業帳簿が、4人の相互の支援による社員により運営されるのであるが、適切に締切られず、それ故、彼等の誰も簿記の知識をもたないため、すべて彼等がこの事業を委ねた者（たとえば、簿記方）により欺かれる (betrogen) からである (s.47)。これに対して、ヒングステッドは、上述の4人の社員のうち、2人が離脱するとき、決算をしなければならない。その際、各々の財産に光が当てられることになる。現在の商人とともに歩もうとしている者は、その前に帳簿の正確な締切を示し、これを非常の場合、審判員たる簿記方により調べなければならない。それ故、簿記方は不注意 (Unvorsichtigkeit) やなげやり (Nachlässigkeit) で彼によって生ずる損害を認識し、複式簿記のせいにしてはならないのである。簿記方が、実際、詐欺 (Btrug) を働いたのか、または簿記方は参加者の帳簿から抜粋したか、および目をくらませる偽装をしたところの貸借平均表へと後ろ向きになってしまっている。この後者の場合、簿記方がその領域に正確に精通していなかったか、またはそれに惑わされていたか、いずれかであった。ヒングステッドは、かかることを複式簿記に背負わせるわけにいかないとする。これについては、まったく責任はないのである。したがって、事業が、確信を持って、かつ幸運にも運営されるならば、簿記方の貸借平均表は複式簿記において好ましい見通し (Ansicht) を保証するものとしている (s.50)。

第3に、単式簿記（簡略化された複式簿記）は、複式簿記よりも、まぎれもなく、長所をもっている。というのは、後者は非常に複雑で、あいまいであるからである。それ故、詐欺師は容易には発覚さ

れないままであり、それはまったく不可能なこともある。したがって、債権者および裁判所を欺こうとしている商人は、作成するところの虚構された、不正確な申告をするとする。これに対して、ヒングステッドは、単式の様式の帳簿に基礎を置いているので、意識的に、間違った原則および詐欺が第一に保持されているとすれば、単式の様式の上に最終的に置かれているに違いない。したがって、単式簿記（簡略化された複式簿記）は、当然、複式簿記より前に存在していたであろうとする（s.47）。このような展開に対して、ヒングステッドは、複式簿記に長所を見出す。この方法は、現金が入ってくる額について現金勘定に借方記入し、支払った額について貸方記入するよう扱う。そのために、最終的に、数字を書き誤らず、借方記入または貸方記入するのを忘れないよう、まったく同じ金額で借方および貸方へと納得するために、受け取った現金に対して借方記入し、そして同じ金額を再び貸方記入する。それ故、全勘定にこの原理が敷衍される。この帰結として、ヒングステッドは、誰がこの方法を混乱させたのか、それは不手際をした簿記方である。誰がそれを暗くしたかは、誰も明確な考え（Begriff）をもっていなかったからだとする。それ故、無知な者が、予備知識および研究もなく、状況を把握し、実行したとするのである（s.51）。

第4に、複式の方法に従った帳簿の試算表の締切（Probe=Abschluß）および実際の締切（wirklichen Abschluß）では、各々の勘定の額は元帳よりもたらされ、この繰越額が2つの側で完全に一致するとすれば、すべて正確となり、調整は終了する。しかしながら、この一致に関係なく、帳簿は不正確となることもある。たとえば、共同経営者または簿記方は、あれこれ一方の借方が少なく、それに対して、貸方が多く、元帳へもたらすことがある。そのために、他の仮定された相対応する勘定の側を、帳簿を外見的に正確に付けるべく、改定してしまっている（s.47）。これに対して、ヒングステッドは、貸借平均表の作成に際して、これを適切にするために、ページの数字を挿入するのが必要であるとする限り、このように明確にする補助手段なしでも、なお同じ貸借平均表を明らかに、意義ある状況へもたらすことができるとする。それ故、複式簿記を背後へ追いやることはないとする（s.52）。

第5に、優れた詐欺師は、複式簿記でその権能、即ち、役立つ取引でその共同社員が取引よりもたらず欲望を達成するべく損よりも多く見せかけるにちがいない。どうみても、損をもたらす事業がもうかっているよう容易にみせよう。それによって、その事業の部分を受け取る誰かが他のまじめな者を説き伏せるのか、同じことをその共同経営者に丁稚あげた勘定および誤った状況を事業がターラーに固有の根拠をもたなくなるまで、または支払い不能となるまで、避けて通してしまおうとする（s.47）。それに対して、ヒングステッドは、詐欺に対して誰にも簿記の様式を保証し、さらに、かしこく、冷静にかつ意義あるように工夫される。それ故、理解力ある者は、勘定による事業の認識から、商人に提示された帳簿を詳細な監査に耐えるように、軌道にのせようとする。したがって、簿記そのものはシステムよりのアプローチであり、それより作り出される情報は、社員であり簿記方の問題である。それ故、人の複式簿記に対する知識とその運用が問題なのである。その帰結として、監査は簿記の始まりより関係が深かったといえる（s.52）。

第6に、複式簿記の処理方法は、しばしば、簿記方が本来作成したものを知らずとし、提示することもできないし、そして混乱させてしまう。それ故、何らかの取引の対象を人に問おうとしても、その人はまったく助けとならないし、まさに、その人は商業帳簿を手にしたのであるかのようにはならなからう。それ故、この方法は理解するのが困難となるとする（s.48）。それに対して、ヒングステッドは、複式簿記にたいして無知であり、汎用ではなかった。なぜならば、複式簿記のこのような方法は理解するのが難しかったからである。しかし、このように複式簿記を理解するさいに学問それ自体に責任が課されるものではない。しかしながら、簿記システムそのものが創出されるのは不可能であろうとするのは、心許ないといえまいかとする（s.52）。

第7に、破産者に対する債権者は、貸借平均された帳簿の呈示そのものにより後ろ向きになり、裏切られるであろうとする（s.48）。それに対して、ヒングステッドは、この間違った指示を明示するのは不可能ではないし、それに各々の手際がよくない簿記方はそのような才能をもっていないとする。だが、ここハンプルグでは、この事例はほとんどない

とする。というのは、支払い不能事象では、このような事例がみられないと推定される特別の宣誓した簿記方 (besonders beeidigter Buchhalter) が任命されるからであるとする (s.53)。

第8に、帳簿の締切は、非常に多くの困難と関連する。即ち、非常に多くの時間を必要とし、信頼性がない、混乱のきっかけとなるとする。それ故、一般に、一貫して誰もそれに対応して、正確な、奨励される、勤勉な、かつ完成された簿記方を除いては必要としないのである (s.48)。それに対して、ヒングステッドは、ジョーンズは複式簿記を悪人に仕立てているが、それでも、信頼できる欠陥のない貸借平均表が上述のやり方で毎日作成されていることこそ実証を可能とするとする (s.53)。

第9に、最も注意深くかつ才能のある簿記方でも過ちを犯さないものではなく、常に注意してもいまだ快適でなく、かつ不安定であるとする。このことは、もともと本質的なものであり、変わりのないものである (s.48)。それに対して、ヒングステッドは、複式簿記のシステムを取りが小さくとも大きくとも充分であるとみた。それ故、複式簿記が妨げとならないとする。このような主張については、しかしながら、これが明らかに解明されるまで疑いをもたないとする。このことは簿記方自体の資質によるものといえよう (s.53)。

第10に、名称「複式簿記」は見せかけが多いことを示しているが、不名誉な、低級なかたちで考え出された計画ではなく、非常に多くの助けとなる手になしとげられたシステムの存在であることを示している。にもかかわらず、第9と同様に、高貴でない目的で打ち立てられたに違いないとする (s.48)。それに対して、ヒングステッドは、複式簿記では各々の額が固有の勘定の借方へ、そして同時に他の勘定の貸方へ記入される。要するに、複式で記入すると称するとする。ジョーンズはこのシステムを、あえて、最悪とっている。というのは、どのようにして詐欺および策略に手を貸したかを明らかにできないからであるとする。ここでは、確かに、複式簿記によりごまかされる者はほとんどいないし、そして、一事実であったとして、かつまったく才能のなくはない簿記方の調査に事象が供されるとすれば一詐欺がすみやかに、かつ容易に明らかにされることを願うとする。ただ、この願いの背後には、弱小の

商人が存在していたり、非常に才能のない簿記方がいたことであろう。詐欺をなくすには、システムの問題ではなく、人の問題であり、悪意があれば、過ちを防ぐことはできない。それ故、ここに専門家の監査の起源があろう (s.53)。

第11に、全世界の商人は、その帳簿が、複式の方法に従って、正確であることにより証拠を示すことができる。したがって、この帳簿は、いずれの事業にも使用される (s.48)。それについて、ヒングステッドは、正しい、自己の貸借平均表を簿記方により呈示されるあらゆる商人では容易に受け入れられるとする。それはそうと、複式簿記を知っているか否かである。また、どんなシステムでも他には正確な貸借平均表をもたらすことはできない。しかしながら、ジョーンズは、帳簿からもたらされる貸借平均表の正確性を、各々の商人に、自ら無知識の者に、さらに、調査するすることなく、目にしみ込ませるよう要求するならば、彼の要求は不可能と紙一重であり、何の新しいシステムも将来かかる強まった要求を満足させるものではない。ヒングステッドは、これからして、十分に複式簿記に反論するジョーンズの提案の無意味さを示した。しかし、単式簿記 (簡略された複式簿記) に反論して思考することを念頭に置いているのではなく、ここでは多くの正当性をもっているといえる。要するに、実際には、しばしば補助簿からもたらされる仕訳帳 (Journal) および元帳 (Hauptbuch) において、意味がないか、まったく正確でないか、かつしばしば不十分に記録されるところの貸借平均表 (Balanx) の作成に際してみられる正当性のない部分がもたらされるとする。このことからして、単式簿記 (簡略化された複式簿記) に関する著書の作成について検討するよう、それに頼らざるを得ないとする。その帰結として、元帳の勘定には単式簿記および複式簿記ともに共通しているが、日記帳は「仕訳帳的日記帳」を取り入れている。ただし、仕訳帳については、借方と貸方の一方のみが示されており、本来の貸借平均表の原理は貫かれていない。さらに加えて、この仕訳帳的日記帳では貸方側に「借 or 貸」欄が設けられており、借方と貸方の欄の合計がこの「借 or 貸」欄の合計と一致する仕組みとなっている。このような「仕訳帳的日記帳」で借方側に商品在庫を加算し、貸借差額が利益として算出されてい

る。したがって、従来の簿記ではなく、ジョーンズの称する「イギリス式簿記」となっている (s.54)。

さらに、ヒングステッドは、ジョーンズのイギリス式簿記はその構造および内容について3つの項目に問題があるとする (s.56～58)。

そのひとつ目は、仕訳帳的日記帳では、借方側でも、貸方側でも多数の欄が設けられていて、記帳が単一の欄に比して、例示にみられるように、複雑であることである。したがって、煩わしいとする。

その2つ目は、仕訳帳的日記帳において、借方側、貸方側、および貸方側における「借 or 貸」の3つの欄が設けられていることである。後者の欄はジョーンズの簿記の特徴を示すものである。これがあることにより、単式簿記でも複式簿記でもないジョーンズのイギリス式簿記となっている。これがあることにより、数多くの大きな取引となると問題を抱えることになる。というのは、彼の簿記の全体像を見る限り、日記帳と元帳の両方で利益計算を可能にする。しかしながら、固定資産勘定等の利益計算の関係のない諸要素が勘定として記録されるとすれば、利益計算は不可能となる。その帰結として、イギリス式簿記を採用しようとすれば、小規模の単純な事業のみに限られることになる。この固定資産の存在が小規模か否かを区分する境界となる。ジョーンズの熱意と努力にもかかわらず、このイギリス式簿記は、英国では広く用いられたとは思われないとされている。その帰結として、イギリス式簿記は、イギリス経済が大規模となり、多様化する19世紀ではほとんど採用されなかったという状況が理解できよう。

3つ目は、従来の簿記のシステムよりもかけ離れているか、または何ら優れたものではない。ジョーンズのまったくの誤りは、すべてのシステムに入り込んでしまっている。見出そうとすれば、従来の方法でと同様にさがし、調査しなければならない。ジョーンズのシステムを重要な取引で利用しようとすれば、複雑な合計の算出を確実に行うために、非常に能力があり、教育を受けた者が要求される。また、最終的に、詐欺はこのジョーンズの方法でも、まったく混在し、従来の方法にもまして、この方法に従っても偽装された状況が都合良く作られてしまう。

かくして、ヒングステッドによりシステムその

ものからもたらされる課題も論じられた。彼は、ジョーンズの簿記をはじめ、さまざまな単式簿記(簡略化された複式簿記)に対して、補助簿と元帳の勘定とに様々な関係が生まれ、多様な簡略化された簿記が存在するとする。それを単一の、体系化された複式簿記に基づいて検討を試みたのである。

V 結語

ジョーンズのイギリス式簿記は、ワーグナーの記によりドイツへ知らしめられた。この簿記書ばかりでなく、イギリス固有の複式簿記も摂取した。それは、元帳における勘定を締切る時、勘定の残高に「次期繰越」と記入して締切り、即座に当該勘定に「前期繰越」を記入して取引の記録を開始することにある。それ故、イギリス式簿記における商業帳簿特徴は、「決算期間を越えた商業帳簿の継続」と称される。これからして、仕訳を通じて貸借平均表を作成することはできない。敢えて作成するならば、「次期繰越」額を収集することになる。

当論文では、単式簿記(簡略化された複式簿記)の事例として、ゲアハルトおよびストリッカー、そして、ジョーンズのイギリス式簿記について、ヒングステッドの志向する複式簿記を土台にして、上述の3者の著作に批判的検討を加えている。複式簿記は「複式記入」が基礎となっている。その内容は、2つの要素よりなる。そのひとつは、数学の等式に由来するところの「貸借平均の原則」であり、もうひとつは、簿記の要素である勘定についての「仕訳の原則」である。この両原則により仕訳は成立する。上述の3者は、複式記入の2原則を満たしている。しかし、これを表現する仕訳帳を原則として用いていない。そのために、日記帳から元帳に至るまで様々な方法が考えられる。

単式簿記(簡略化された複式簿記)は、基本的に、現金勘定、債務者勘定および債権者勘定よりなる簿記をいう。この簿記は、商業が発展するにしたがって、商品取引にともなう諸勘定が必要となる。そこで、単式簿記(簡略化された複式簿記)といえども仕入勘定、売上勘定、商品勘定等々が登場してくる。その帰結として、単式簿記(簡略化された複式簿記)から複式簿記へ移行するところの「混合簿記」の存在が認められよう。ドイツでは単式簿記

(簡略化された複式簿記)と称するなかに、すでに、商品取引関連の勘定が認められるからである。

ゲアハルトは、単式簿記(簡略化された複式簿記)を論じてはいるが、複式簿記を志向している。したがって、複式簿記における元帳の諸勘定と同様、日記帳より、直接、仕訳を想定して、元帳へ転記される。補助簿の利用については勘定を補助する役割を担うものである。最終的に、諸勘定を集合させて財産目録を作成させている。しかしながら、元帳から貸借平均表に至るプロセスでは仕訳は認められない。

ストリッカーも、単式簿記(簡略化された複式簿記)を論じているが、一部について、仕訳を用いている。それは、債務者および債権者のみである。これは、プロイセン一般国法の訴訟に関わる諸規定を反映するべく論じられたと推定されよう²³⁾。日記帳は仕訳を内包するところの「仕訳帳的日記帳」と称されるものである。これには、債務者および債権者以外の取引については、日記帳より補助簿に記録される。現金帳から始まり、送り状帳、控え帳、郵便料金帳、経費帳、手形在高帳、商品在高帳、手形振出・受取帳、送金帳が存在する。そして、これらの帳簿から、元帳通さず、直接、決算財産目録へと振替えられる。同時に、元帳から決算財産目録へと振替えられる。したがって、財産目録は、両者の集合体となる。これを要約すると貸借平均表が完成する。この簿記は、一部であるが、仕訳帳の存在する複式簿記へ向けての一步前進である。加えて、多くの商品取引に関わる補助簿があり、これらを総合的にみると、「混合簿記」といえよう。

ジョーンズのイギリス式簿記は、不正の防止および記録の正確性を求めて創造された簿記であり、上述2者と異なり、日記帳に特性がある。そこでは、借方と貸方をもつ欄が設けられており、加えて、貸方側に「借 or 貸」欄が設けられている。そして、借方と貸方の両欄の合計と「借 or 貸」欄の合計が一致すれば、記録の正確性が保証されるとし、かつ、いつでも計算可能であるので不正も防止されるとする。ただし、この日記帳での仕訳は、一方の側のみが記録される。したがって、相手勘定はない。現金勘定、債務者勘定および債権者勘定についての

取引だけが明らかとなり、商品関連の取引は隠されてしまう。このことからして、日記帳において、棚卸高を加算した借方合計より貸方合計を控除すると利益が算出される。もう一方で、商品在高勘定において利益が計算される。即ち、借方の合計より貸方の合計を控除することで利益が算出される。ただし、固定資産勘定等の利益計算に関係のない諸要素が勘定として記録に登場すれば、利益計算は不可能になる。その帰結として、固定資産が記録されない限りで可能な簿記であったのである。

計算構造もさることながら、人の意思が問題であるとする。やろうと思えば、いずれの簿記を採用しようとも、不正は防止はできない。したがって、監査の必要性が出てくる。会計の歴史は、同時に監査の歴史でもあるのである。

ヒングステッドによれば、単式簿記(簡略化された複式簿記)は、かくして、様々な方法があるとする。それに対して、複式簿記は、単一の、かつ体系的簿記であり、小規模ばかりでなく、大規模でも、もちろん、適用可能であるとする。そのためには、複式簿記の知識が要請される。ヒングステッドが、小規模事業に対しても複式簿記の事例を呈示したのもこのような要件を充たす必要があった。そこで、複式簿記の習得がますます期待されたのである。

参考文献

拙稿

- 松尾憲橘・百瀬房徳訳(1985)「貸借対照法の論理」森山書店(クノー・バルト著)。
- 百瀬房徳(1998)「貸借対照表法の生成史」森山書店。
- (2009)「体系複式簿記」(改定版)、森山書店。
 - (1983)「プロシア一般国法の会計規定の起草者」『獨協大学経済学研究』第32号。
 - (1987)「プロシア一般国法における計算規定の形成」『獨協大学経済学研究』第22号。

23) 百瀬房徳、2016年、s.41～43。

- (1989)「プロシア一般国法における商人の法の位置付け」、『獨協大学経済学研究』第53号.
- (1993)「プロシア一般国法における商業帳簿」、『独協経済』第60号.
- (1996)「プロシア一般国法における評価問題」、『独協経済』第62号.
- (1996)「ストリッカーの簿記」、『独協経済』第63号.
- (1997)「ルドヴィシの簿記」、『独協経済』第65号.
- (1997)「サヴァリーよりルドヴィシに伝えられた二つの財産目録」、『独協経済』第66号.
- (1997)「プロシア一般国法の会計規定の生成過程」、『会計史』(会計史年報).
- (1998)「18世紀におけるドイツ会計の生成とその背景」、『独協経済』第67号.
- (1997)「マーゲルセンの簿記」、『独協経済』第64号.
- (2001)「マーゲルセンにおける損益勘定」、『独協経済』第74号.
- (2001)「財産目録の位置付け」、『会計』森山書店.
- (2004)「会計制度創始期における評価」、『独協経済』第78号.
- (2007)「ロイヒスと彼の著作」、『独協経済』、第84号.
- (2008)「総記法の歴史的意義」、『会計学の諸相』白桃書房.
- (2008)「ロイヒスにおける決算手続」、『会計総合研究』会報.
- (2009)「ロイヒスにおける複式簿記」、『独協経済』第86号.
- (2014)「ロイヒスにおける単式簿記」、『経営論集』第61巻第1号、明治大学経営学部.
- (2014)「ドイツにおけるジョーンズの簿記とその評価」、『獨協経済』第88号.
- (2015)「ワーグナーの複式簿記」、『獨協経済』第97号.
- (2016)「ゲアハルトの簿記の基礎」、『獨協経済』第98号.
- (2017)「ゲアハルトの簿記の実践」、『獨協経済』第100号.
- (2017)「ゲアハルトの簿記の制度への対応(1)」、『獨協経済』第101号.
- (2018)「ゲアハルトの簿記の制度への対応(2)」、『獨協経済』第102号.